1. **開催経緯と概要**

令和6年6月12日13時より、彩の国すこやかプラザ2階セミナーホールにて、意見交換会を開催しました。埼玉県福祉部社会福祉課からは播磨課長、鹿島主幹、宮川主事が参加し、本会からは市町村民児協会長および主任児童委員部会員が出席しました。主なテーマは、令和5年5月31日から8月31日に埼玉県が実施した民生委員・児童委員アンケートの結果報告と意見交換です。このアンケートは、地域福祉の担い手として期待される一方で負担が大きいとされる民生委員・児童委員の実態と課題を把握し、活動しやすい環境づくりやなり手確保に向けた取り組みを検討するために実施されました。意見交換会では、アンケート結果の詳細が報告され、その内容に基づく意見交換が行われました。本記事では、その詳細をご報告いたします。

1. **県の説明要約**

P3　2.委嘱者年齢

60-70代が80%を占め、定年退職後の委嘱が多い。仕事との兼ね合いもあるが、若い人の委嘱も推進していきたい。

P4　3.職業

常勤の方は6％であり、活動時間の確保が懸念点。長く活動する委員の割合が少なく、長期で継続して活動できる環境整備も必要。

P5　1.民生委員活動の中で、対応することが多い活動

活動の柱は高齢者支援であり、平均的な活動日数よりもなかなか活動できない委員の支援も検討する必要がある。

P6　3.民生委員・児童委員を引き受けた動機

引き受けた動機は「頼まれたから」が多く、やりがいや社会貢献の割合は2割程度。民生委員活動の重要性ややりがいをアピールすることで、やりがいを感じる割合を増やしていきたい。

P7　5.民生委員活動において「やりがい」を感じること

地域の方との交流で感謝される機会が多い。こういった場面をアピールし、民生委員の広報に努めていきたい。

P8　6.民生委員活動において負担と感じていること

活動の範囲や個人情報の提供範囲についても明確にしていく必要がある。

P9　8.「民生委員活動の範囲を超えると考える活動」とはどのような活動か

民生委員の活動範囲を超えていると感じる依頼については、行政や地域住民からのものが多い。民生委員同士においても統一した共通認識を持つ必要がある。

P10　10.なり手不足の理由

なり手不足の理由及び必要なことについては、民生委員協力員などの取組が各地で行われている。また、一斉改選以降の委嘱の手続きについては、6月1日時点で47市町村において欠員があり、欠員率は7.0％。県政サポーターにも民生委員の認知度についてアンケートを実施し、認知度は50％。今後も積極的な広報活動に取り組むとともに、アンケート結果を活用して関係機関との連携強化にも努めていく方針。

1. **質疑応答**

Q1:

経験年数ごとのグラフについては年々の推移を把握する必要があると感じている。2期以内が5割を超えた現状の中で、そういった対象への研修をより手厚くする必要があるように感じる。時代の流れで対面研修が減っているが、重要性は高いと感じている。

A1:

研修の委員会等で話し合い、研修の開催方法などは改善を図っていきたい。

Q2:

障がい児の情報がもらえない。P5の回答によると情報を得て活動されている方が0.5%いるというのは正直ショックであった。情報がなければ支援ができないと思う。どこにどういった方がいるのか把握できない中で要支援者支援については障がい児も把握対象となっていて違和感がある。

A2:

〈市町村から情報提供があるところへ挙手を促し〉市町村において積極的に情報を出しているところ・依頼に応じて出してもらえるところの差があるとのことなので、今後現状把握に努める。

Q3:

来年度は改選時期に入るが、欠員対策に向けて具体的にどんな取組をしていこうと考えているのか。具体的な方針について伺いたい。

A3:

これから関係団体を含め検討会を実施していく中で活動範囲の明確化を図り、民生委員の中心的な役割について市町村に示していきたい。

Q4:

P10の10・11に関連して、新しく民生委員児童委員になる方は福祉の素人の方が多い。民生委員の認知度が秩父市では17％であり、お願いするときにも民生委員について知らない方を対象とすることが増えている。一方で県職員や行政のOBなど民生委員の活動に理解がある人もいる。しかしそういう人ほど引き受けない。民生委員の活動を知らない人にお願いをしていくのか、逆に県職員や行政OBなどが引き受けてくれるような環境整備を進めるのか方針を考える必要があると考えている。

A4:

公務員退職者などに対するPRも今後検討していきたい。

Q5:

自治会の加入率の低下と保護司の事件について、県の見解を伺いたい。

A5:

自治会の加入率については承知していない。民生委員にも訪問時のリスクがあることは承知している。リスクのある訪問については複数人でできる体制を整えるなど、今後検討していきたい。

1. **今後の方針**